

授業改善推進プラン＜学年別＞

1 年	課題分析	授業改善策
国語	【知識・技能の問題点】 ○毎週行っている漢字テストの達成率平均が70％前後であり、50％に達しない生徒がクラスの三分の一程度を占めている。個人差が大きい。 【思考力・判断力・表現力の問題点】 ○表現に即して文章の内容を正しく読み取ること、自分の経験と照らし合わせて想像したり考えたりすることを苦手とする生徒が多い。	【反復練習の強化】 ○授業ノート、作文等において、漢字を使わず平仮名を多用している生徒への個別支援を粘り強く行い、漢字を使う習慣を身に付けさせる。家庭学習ノートを提出させ、確実に漢字練習を行うようにさせる。再テストを繰り返し行い、確実に覚えさせる。 【交流活動、話し合い活動の機会設定】 ○他者との交流を通して、自分の読み取りの間違いに気づいたり、考えを深めることの楽しさを実感したりできるよう、交流活動を計画的、系統的に設定する。
社会	【知識・技能】 ○1学期の定期考査では、知識・技能の達成率50%未満が全体の30%であった。全体の7割の生徒は、50%をクリアしている状況である。 【思考力・判断力・表現力】 ○1学期の定期考査では、思考・判断・表現の達成率50%未満が全体の42%であった。全体の約6割の生徒が50%をクリアしている状況である。	【知識・技能の育成】 ○毎回の授業において前時の復習を質問形式で行い、知識の定着を図る。単元の要点に関しては、板書内容をノートに書かせるとともに、必要な内容については、ノートにメモをとらせる。技能に関しては、資料やグラフの読み取りを行う。授業の最後に振り返りを行う。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○毎回の授業で、生徒に考えさせる場面を作り、発表させる。
数学	【知識・技能】 ○知識は、身に付いていたものの、技能は、定着していない生徒がいる。 【思考力・判断力・表現力】 ○自分の考えを言語化し、学んだ知識を活かし、適切に判断、表現する力がまだ付いていない生徒がいる。	【技能の育成】 ○全体的な練習量が足りないため、家庭学習で毎日計算練習を行わせる。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○自力で考える時間を与え、自力で考えることが厳しい生徒には、見通しを示し、考えさせる。
理科	【知識・技能の問題点】 ○基礎的な内容を理解できていない生徒がいる。 ○計算に対して苦手意識があるため、質量パーセント濃度や密度の計算問題が解けない生徒がいる。 【思考力・判断力・表現力等の問題】 ○学習した知識を組み立てて表現することが苦手である。	【知識・技能の育成】 ○基礎的な学習内容が定着できるように、繰り返し指導を行う。 ○実験器具の正しい使い方を理解し、理科室の決まりを守り、友達と協力して安全に実験・観察を行うことができるようにする。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○実験結果や考察を文章で表現できるようにする。
英語	【知識・技能の問題点】 単語や文法ルールの定着が弱い。アンケートでは、日ごろからよく学習したという生徒が全体の35パーセント程度であり、多くの生徒はテスト前等での取り組みにとどまった。 【思考力・判断力・表現力の問題点】 英語表現には意欲的だが、知識・技能の定着不足が表現の障害となっている。	【授業で既習事項に触れる】 各単元や各授業の頭には、教科書のストーリーに通じ触れる活動があるので、その中で既習事項を取り入れたティーチャートークや設問を取り入れる。 【家庭学習へつなげやすいテストデザインの工夫】 テストの試験範囲を示して終わるのではなく、どういう力を、どのような形式で測るのかを明確にし、自主学習をサポートする。また、定期考査以外に、小テストやパフォーマンステストなどを計画的に設定し、小さな努力を積み重ねられるようにする。
美術	【知識・技能の問題点】 ○絵の具の技法や筆の使い方を教えても定着しない生徒がいる。 【思考力・判断力・表現力の問題点】 ○デザインがなかなか思いつかないため、制作の時間が足りない生徒が一部いる。	【知識・技能の改善点】 ○机間指導の際に粘り強く繰り返し指導をしていく。タブレットやワークシートで過去に指導した内容をすぐに振り返り替えられるようにする。 【思考力・判断力・表現力の改善点】 ○見本とともにタブレットや資料集、その他参考資料を用い、アイデアの幅が広がるよう工夫をする。
音楽	【楽曲の鑑賞力】 ○定期テストから、楽曲とその曲の背景、構成との結びつきを理解できている生徒が少ない。 【歌唱における合唱力・表現力】 ○全員で姿勢を正して歌ったり、周りのパートの声をよく聴いて歌うことが難しい。 ○表現について教員側から示しても部分的にしか実行できず、楽曲全体を通して表現することができる生徒が少ない	【視覚的・聴覚的なバランスの取れた教材】 ○聴覚的な教材に加えてデジタル教科書を活用した視覚的な教材を取り入れることによって、学びを深化する。 【繰り返しと対話的な学び】 ○授業の導入で歌う時のポイントを毎回確認するようにする。 ○グループでの話し合い活動を取り入れることで表現について各々が考える時間を確保し、具体的な表現方法について考えられるようにする。またタブレットを活用した意見交換を行う。
保健体育	【協働力の育成】 ○グループワークの設定が多い一方で、生徒間でのコミュニケーションや学び合いが少ないと感じている生徒が多いことがアンケート結果よりわかった。 【ICT機器の活用】 ○ICTの機器の活用状況が、他教科と比較すると低いと考えられ、生徒も上手く活用できていない。 【提出物の徹底】 ○提出物の提出状況を見ると、一部の生徒において、提出物を全く提出していないことが見受けられる。学習指導および生徒指導上の観点からは徹底させることが課題である。	【ICT機器の活用によるグループワーク】 ○主に体育授業において、ICT機器を活用し、生徒が自らPDCAサイクルを回すことができる学習活動を導入する。また、その際に、生徒同士がコミュニケーションを図り、学び合いができる環境を作れるように適宜、声掛けを行っていく。 【課題の提出状況などの見える化・働きかけの徹底】 ○提出物などの状況を見る化しつつ、必ず提出する、忘れた場合は報告するなどの行動を徹底できるように声掛けを行っていく。

技 術	【材料と加工の技術】 ○問題の発見～課題の設定まで興味をもって取り組めるようにすることが課題である。また、理解度やものづくりの経験に差があり、工具（道具）の扱い等により作業進度にばらつきが出ている。	【材料と加工の技術】 ○実習時に個別指導の時間を多く取り、丁寧な指導をする。 実習作業に流れを作る。 ○スライド(授業で示したもの)やICT（動画など）をクラスルームに登録していつでも閲覧できるようにして、自ら学び理解しようとするよう指導をする。
家 庭	【知識・技能の問題点】 ○家庭の仕事に興味をもち、日頃から家事に接するなどしていないとなかなか自分の事として捉えることが難しい。	【基礎的知識の定着】 視聴覚教材の活用や家庭での実践、授業における発問等を活用し、復習の機会を増やし、知識の定着を図る。